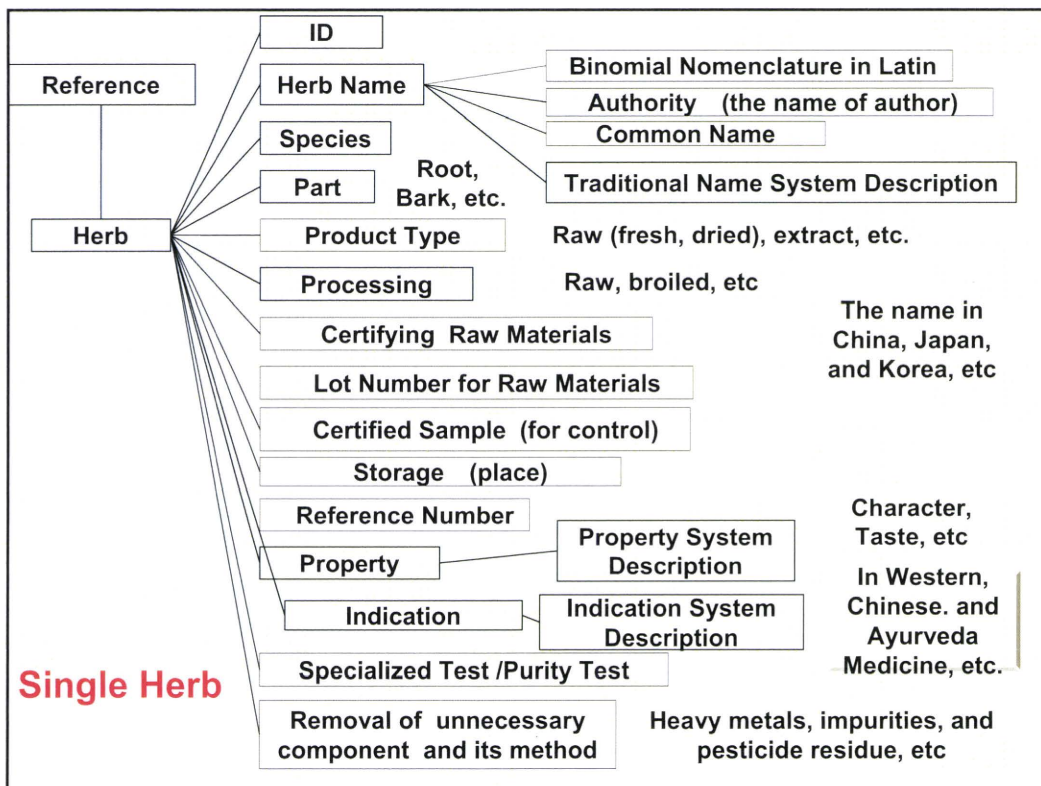
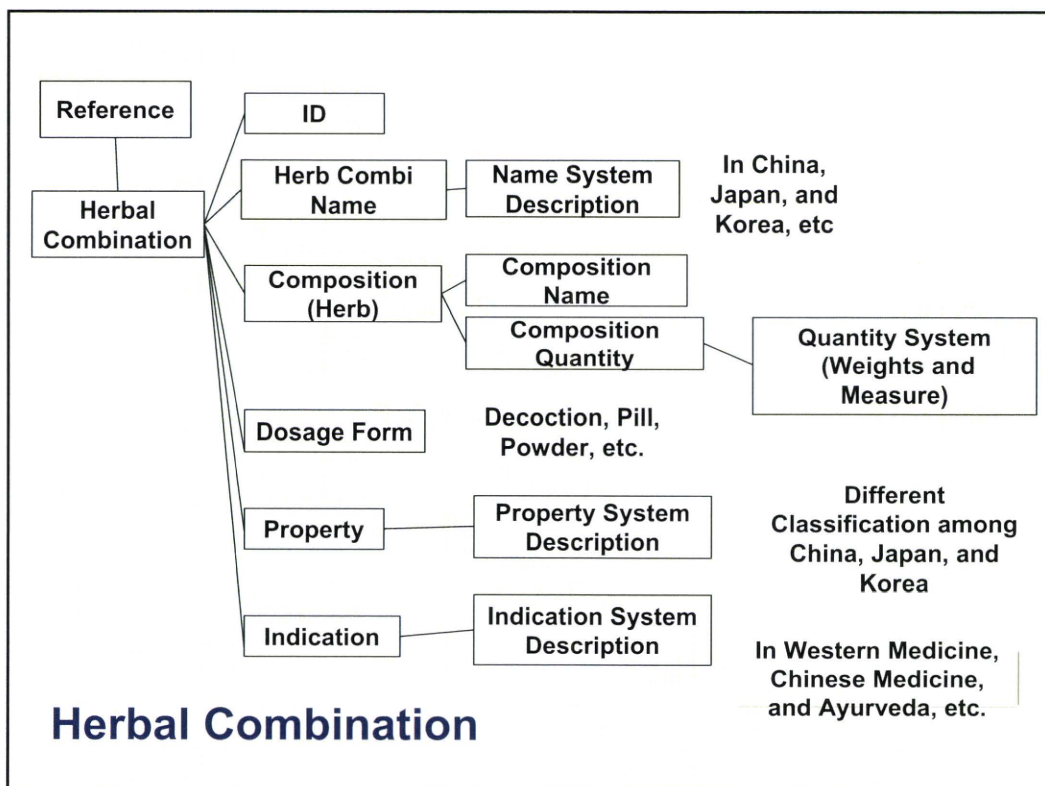
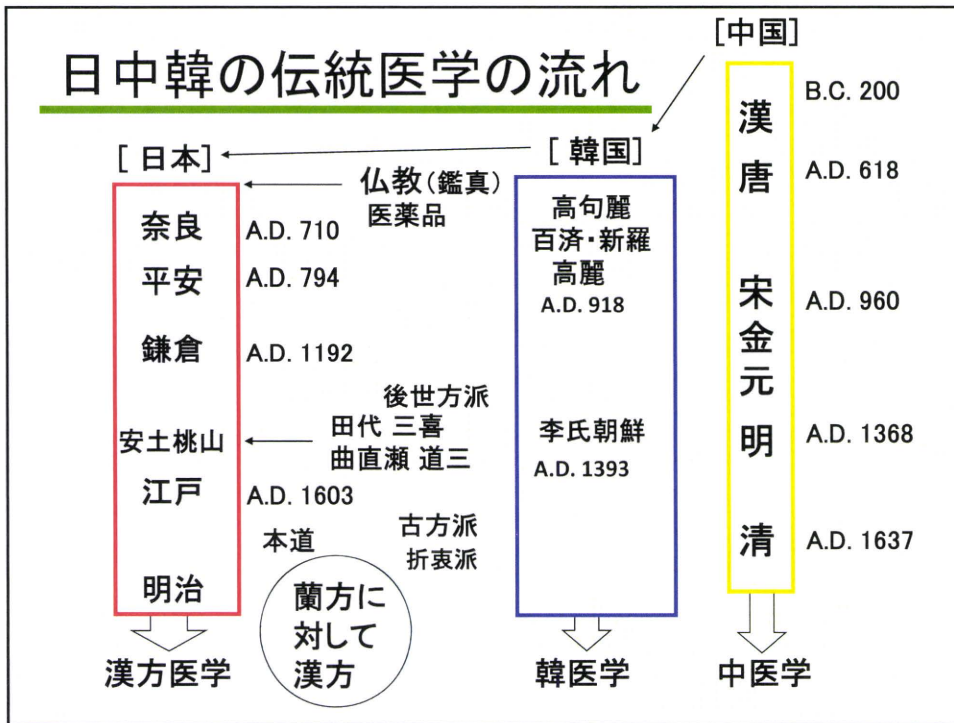


Component herbs of *Shofusan* 消風散

Traditional Japanese medicinal formulation	Traditional Chinese medicinal product
<i>Sekko</i> (Gypsum)	<i>Sekko</i> (Gypsum)
<i>Jio</i> (Rehmannia Root)	<i>Jio</i> (Rehmannia Root)
<i>Toki</i> (Japanese Angelica Root)	<i>Toki</i> (Japanese Angelica Root)
<i>Sojutsu</i> (Atractylodes Lancea Rhizome)	<i>Sojutsu</i> (Atractylodes Lancea Rhizome) [fried]
<i>Bofu</i> (Saposhnikovia Root)	<i>Bofu</i> (Saposhnikovia Root)
<i>Mokutsu</i> (Akebia Stem)	<i>Mokutsu</i> (Akebia Stem)
<i>Sentai</i> (Cicada Periostracum)	<i>Sentai</i> (Cicada Periostracum)
<i>Kanzo</i> (Glycyrrhiza)	<i>Kanzo</i> (Glycyrrhiza)
<i>Keigai</i> (Schizonepeta Spike)	<i>Keigai</i> (Schizonepeta Spike)
<i>Goma</i> (Sesame)	<i>Amashi</i> (Flax Seed)
<i>Chimo</i> (Anemarrhena Rhizome)	<i>Jikoppi</i> (Boxthorn Root Skin)
<i>Kujin</i> (Sophora Root)	
<i>Goboshi</i> (Burdock Fruit)	







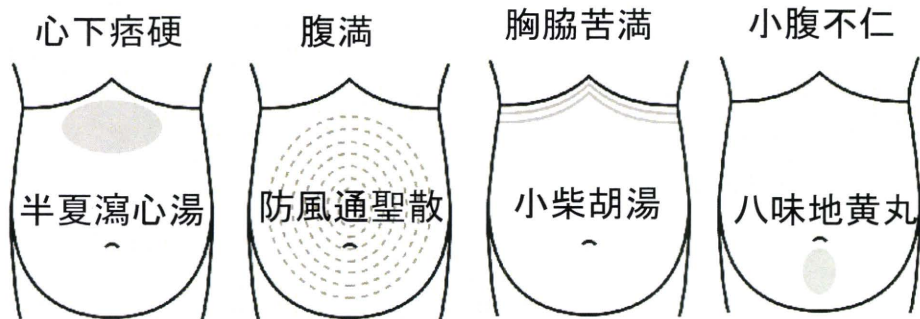
日本漢方の特徴

- 腹診を重視
- 薬の用量が中国より少ない
- 西洋医学と併存・併用
- 同じ処方名でも中医学とは構成生薬が異なる



腹診とは漢方医学的腹部診察

→これによって得られる特定の「腹証」は生薬や処方の決定指針となる⇒「方証相対(ほうしょうそうたい)」



中国医学や韓国医学には腹診はない。

漢方薬の再評価

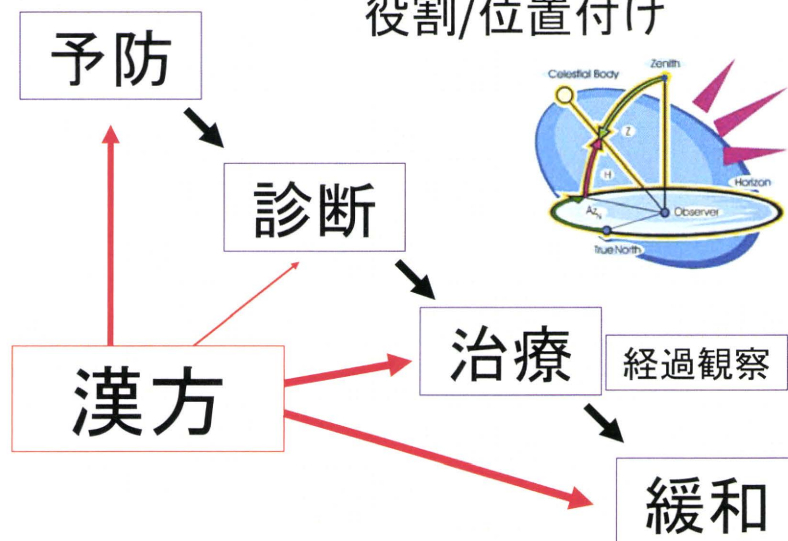
小柴胡湯	慢性肝炎での肝機能障害の改善
桂枝加芍薬湯	過敏性腸症候群
黄連解毒湯	脳血管障害後遺症
小青竜湯	気管支喘息・アレルギー性鼻炎
大黄甘草湯	便秘症
白虎加人参湯	口腔乾燥症
六君子湯	運動不全型の上腹部不定愁訴
芍薬甘草湯	肝硬変に伴うこむら返り



現代医療における 漢方的発想

- 西洋医学的検査。
- 検査結果をもとに西洋医学的に診断。
- 病名が付かない場合は漢方的発想を。
- 西洋医学的な治療に限界がある場合には漢方治療も考慮。
- 東西両医学の適応と限界を知り、患者さんに最適の治療を目指す。

がん診療過程における漢方の 役割/位置付け



6

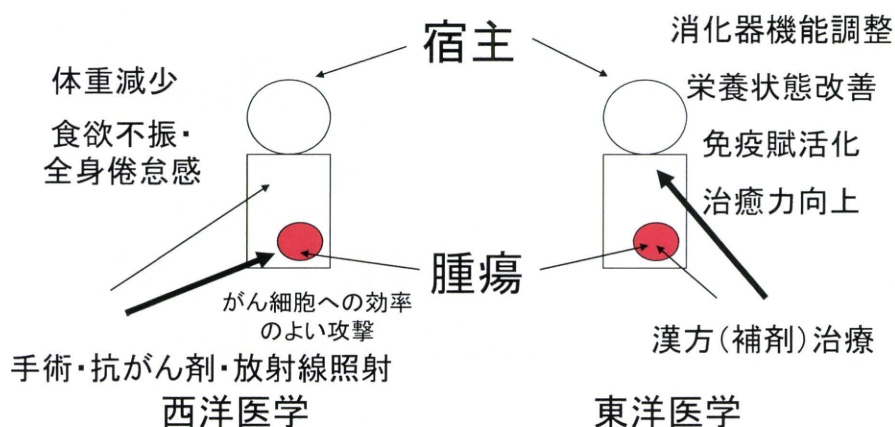
がんの臨床における漢方の役割

- 慢性疾患からの発がん予防・再発予防
- 体調の変化を察知し、診断への契機
- 化学療法・放射線療法の副作用軽減
- 外科手術後の合併症対策
- 腫瘍免疫能の賦活化
- 緩和ケアにおける症状緩和
- サイコオンコロジーでの応用



7

がん治療における東西両医学の比較



しかし、西洋医学にも免疫賦活剤があり、
東洋医学でも抗がん生薬を使う

8

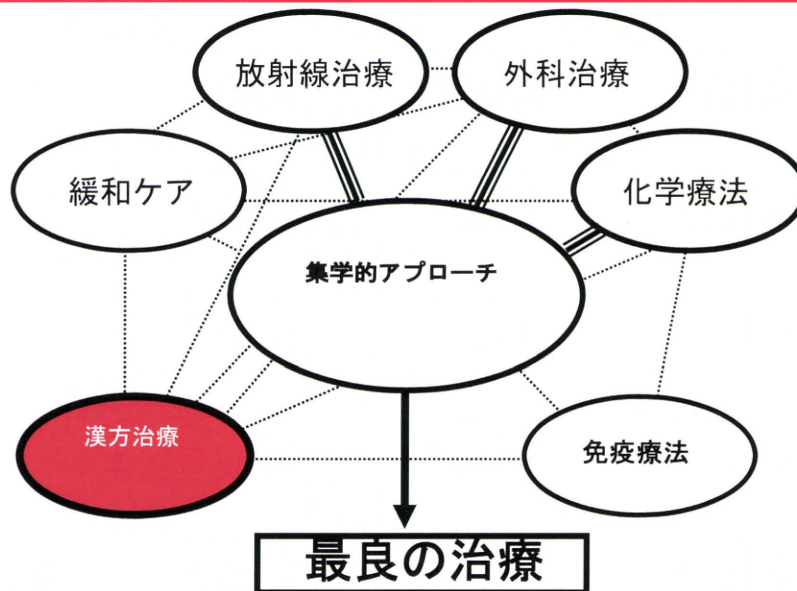
抗がん生薬

- 半枝蓮(ハンシレン)
- 白花蛇舌草(ビヤッカジャゼツソウ)
- 山豆根(サンスコン)
- 蒲公英(ホコウエイ)
- 夏枯草(カゴソウ)
- 薏苡仁(ヨクイニン)
- 紫根(シコン)

一般の病院では用
いられない。

9

集学的がん治療における漢方



10

品質の高い我が国の漢方エキス製剤

- 原料の受け入れから最終製品の包装・出荷までのチェック体制が確立されている。
- 医薬品GMP(good manufacturing practice), とくに「医療用漢方エキス製剤の製造管理および品質管理に関する基準」に準拠。



Chinese Herbs Nephropathy (漢方薬腎症)

- アリストロキア酸腎症(aristolochia nephropathy)と呼ぶべきである。
- 木通(日局モクツウ)はアケビ科でアリストロキア酸を含まないが, 関木通は含む. 他に広防已・青木香・馬兜鈴(すべてウマノスズクサ科)がアリストロキア酸を含む.
- 日本国内では使用されないが, 民間薬・個人輸入で使用され得る. 患者さんにも注意を促す.

元雄良治: 日本内科学会雑誌 88 (2):174, 1999.

漢方使用実態

日経メディカル開発は2010年5月7日、「漢方薬使用実態・意識調査2010」の調査結果を発表。86.3%の医師が「漢方薬を処方している」と回答、漢方薬が医療現場で広く使われている実態が明らかに。漢方を使用する疾患・症状は、「感冒・急性上気道炎」が68.3%と最も多く、以下「こむらがえり」(46.6%)、「便秘」(43.4%)、「食欲不振、胃もたれ、消化不良など消化器愁訴」(35.0%)。がんについては大学・一般病院の医師の13.5%が抗がん剤の副作用軽減に、11.2%が緩和ケアに漢方を処方していた。

現代の医師が漢方を使用する動機

- 科学的データが報告されてきた(46%)
- QOLを高め、全人的医療ができる(37%)
- 患者さんからの強い要望(29%)
- 生活習慣病などの進展抑制(21%)
- 医療経済的に費用削減になる(6%)



日経メディカルの調査より

漢方をめぐる国際情勢

1. 国際標準化機構(ISO)
2. 国際疾病分類(ICD-11, IC-TM)

ISO: International Organization for Standardization

ICD: International Classification of Diseases (WHO)

ISOにおける動き

2008年 中国が新規専門委員会を提起
目的:

1. 自国内の医療過疎・健康被害などの問題に対処するため
2. 伝統中国医学(中医薬、Traditional Chinese Medicine: TCM)のボトムアップと振興を図るため
3. 世界的にTCMを利用したビジネスを展開するため

ISO以外の中国の国際標準化案

- WFCMS (World Federation of Chinese Medicine Societies) 世界中医薬学会連合会
 - ・中薬エキス製剤
 - ・国際中医師資格

- WFAS (World Federation of Acupuncture and Moxibustion Societies) 世界鍼灸学会連合会
 - ・灸
 - ・頭皮針
 - ・耳鍼

ISOにおける今までの経緯

	TC215	TC249
2008年	•中国がWG3にTCMの国際規格作りを提案	
2009年	•10月:ダーラム(米国)全体会議: 伝統医学タスクフォースの設置が決まり、Dr. Kwak (韓国)がchair、関がsecretaryとなった。	•中国がTCMの専門委員会(TC)設置を要望 •8月:北京準備会議: TitleはTCM (provisional), ScopeはDevise, safety and quality standards
2010年	•5月:リオ・デ・ジャネイロ全体会議: 日本から6件のNWIPがタスクフォースに出され、3件がWG3で、3件がタスクフォースで継続審議となった。	•1月:上海セミナー •6月:TC249第1回全体会議: Scopeは Medical equipment および Natural materials の Quality and Safetyとする。Titleは未定。

わが国の伝統医学の特徴

- 西洋医学に融合した漢方
- 医師の8割以上が漢方薬を利用する
- 高品質の漢方エキス製剤
- 高品質の鍼灸針

国際規格について

- 良いものが国際規格になるとは限らない
- VHSとベータマックスの例(ビデオ戦争)
- 企業・国家の利権争いの場
- WTO (World Trade Organization: 世界貿易機関)の世界
- 非関税障壁が認められると罰金

大切な伝統医学の多様性

名前は同じでも...

- 基本術語(陰、陽など)
- 生薬
- 方剤
- 経穴

中国・日本・韓国において、同じ名前で、
違うものを指す場合がある

タイトルがTCMになると？

- 世界では中医学(中国伝統医学、TCM)と日本の漢方・鍼灸が異なることは知られていない。国際規格にTCMの名がつくと、その中に日本の漢方・鍼灸が含まれると思われてしまう。
- 中医学と日本、韓国、ベトナム、モンゴルなどの東アジア地域の伝統医学には、差異があり、それが個別医療をするときにとても役に立つはずだが、画一化につながる国際標準策定が進むと、各国の伝統医学の良さを損なうことになる。

医師資格・医学教育の混乱

- 国際中医師
 - WFCMSが認定
- 韓国の事例
 - 中国の中医薬大学を卒業し、中医師免許をとった韓国人が、韓国国内で診療する権利を主張している

JLOM

<http://jlom.umin.jp/>

- Japan Liaison of Oriental Medicine
- 日本東洋医学サミット会議
 1. 日本東洋医学会
 2. 全日本鍼灸学会
 3. 和漢医薬学会
 4. 日本生薬学会
 5. 富山大学医学部和漢診療学講座
 6. 北里大学東洋医学総合研究所

JLOM/ISO WG

- ISO Working Group (WG)

- 関 隆志 東北大学（議長） 医・薬・鍼
- 津谷 喜一郎 東京大学(TC249日本代表*) 医・薬
- 東郷 俊宏 東京有明医療大学 鍼
- 豊玉 速人 医学中央雑誌刊行会 情報
- 鳥居塚 和生 昭和大学（JLOM事務局長） 薬
- 元雄 良治 金沢医科大学（厚労科研班長） 医

* 2011年2月25日より元雄 良治に交代

ISO/TC215 in Rio de Janeiro in May, 2010



日本の主張

- TC249の名称: Traditional East Asian Medicine (TEAM: 東アジア伝統医学)
 - 地理的、歴史的に適切
 - MeSHでも採用している
- TC249の所掌範囲(スコープ)
 - 日・中・韓・ベトナム・モンゴルなど東アジア地域の伝統医学の多様性を包含した標準化をめざすべき
 - 医師免許、医学教育は各国にあるものを尊重する
- 画一化は、各国の伝統医学を衰退させる

ISO/TC 249

2010年6月7-8日に北京で専門委員会249 (Technical Committee 249: TC249)の第1回全体会議開催:

1. 鍼灸関連の機器 (Medical devices)
2. 天然物 (Natural materials)の安全性と品質に関する国際標準作りを進めることが決定。委員会名はTraditional Chinese Medicine (Provisional)のまま。



欧米諸国も熱心

天然物に関しては、中国から輸入する生薬による健康被害に対して、北米やヨーロッパ諸国が強い懸念を抱いており、国際標準作りに積極的。

これらの国々は学術団体のみならず標準化に関わる国家機関や関連企業団体からも代表者を会議に派遣。

International Organization for Standardization
International Standards for Business, Government and Society

Home Products **Standards development** News and media About ISO For ISO Members FAQs

Standards development > Technical committees > List of ISO technical committees > TC 215

Processes and procedures
Technical committees
Business plans
» List of ISO technical committees
Other bodies developing standards or guides
Participation by ISO members
Organizations in cooperation with ISO
Meeting calendar
Maintenance agencies and registration authorities
Standards under development

TC 215 医療情報分野の専門委員会

Health informatics

- Secretariat: [ANSI](#)
- Secretary: Ms. Audrey Dickerson
- Chairperson: Mr. Christopher Chute (USA) until end 2012
- Creation date: 1996
- [Work programme](#) (drafts and new work items of TC 215)
- [Business plan](#) (TC)
- [Working area on ISOTC](#)

Task force for Traditional Medicine (TM-TF)あり

Scope:
Standardization in the field of information for health, and Health Information and Communications Technology compatibility and interoperability between independent systems. Also, to ensure compatibility of data for compo-
sposes (e.g. classifications), and to reduce duplication of effort and redundancies.

日本が立ち遅れている

一方、わが国では、製薬企業などがこの標準化作りに消極的で、日本東洋医学会のような学術団体のボランティア活動に頼っており、政府・産業界からの人的・経済的援助が乏しい。資金もなく標準化のためのボランティア活動を継続することは困難であり、関係者は大きな危機感を抱いている。

厚労科研にISO関連課題

平成22年度厚生労働科学研究費補助金
(地域医療基盤開発推進研究事業)

研究課題名

ISO/TC249に資するための伝統医学関連の用語・疾病分類・デバイス・安全性確保などの基盤整備研究

(H22-医療-一般-013)

研究代表者

金沢医科大学 腫瘍内科学 元雄 良治

世界の伝統医学をめぐる動きが速い

各方面が協力して対応する必要あり



厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
ISO/TC249 に資するための伝統医学関連の用語・疾病分類・
デバイス・安全性確保などの基盤整備研究

灸治療の材料であるモグサの標準化の現状と今後

形井秀一¹⁾、松本毅²⁾

¹⁾筑波技術大学保健科学部

²⁾千葉大学環境健康フィールド科学センター

要旨 灸療法は、世界的にも日中韓が中心に行っているが、3カ国でも共通性のある部分と各国で独自の発展を遂げた部分とが見られる。ISO/TC249 や WFAS の「Manipulation of Moxibustion」などで、灸の標準化が検討されているが、それらの動きに対応して、有識者とメーカー代表者で、中韓と日本の灸の共通性や違いを検討した。日本は特に、艾の精製度やその品質を高める技術などに優れており、病態に応じた詳細な治療技術を駆使することに特徴があると言える。そのため、それらの特徴を如何に標準化の中に活かすかを注意深く検討した。今後も国際標準化の動きに即応できる態勢を整えながら、来年度には、モグサの有害性や安全性を検討するつもりである。

A. 研究目的

現在、世界で、灸治療が高い頻度で行われているのは日中韓であり、他のアジアや欧米の国々における灸治療法はこの3カ国の影響が大きく、その利用頻度はさほど高くない。

日本の灸は、中国に源を持つが、これまで歴史的に、中国および韓国と相互に影響し合いながら発展してきた。日本の灸は中韓と共通の部分はあるが、一方で、日本独自の灸の文化が存在している。日本では、灸は治療法としてだけでなく、日常生活の中にとけ込んだ健康法の一つとして長く受け継がれてきた。その背景には、原材料である蓬（ヨモギ）やヨモギが属する菊科の植物が、日本の文化、風習に四季をとおして密接に関係してきた歴史があり、灸治療は日本人の生活史と深い関

係にある。その歴史の中で培われた艾（モグサ）の品質へのこだわりは強く、原料、製法、製品の出来具合など、その製造技術は世界に類を見ないほど精緻なものであり、また、治療の際にも、患者個々の体質や病態に対応したモグサの質と量と燃焼方法などの治療技術が追究され、他の国とは異なる要素を持つ灸の文化ができあがった。

このような灸の歴史の中で日本では、テーラーメイドの治療として、患者の病状に合わせた灸治療法を確立してきた。しかし、灸治療の方法、モグサの品質評価や安全性については、標準化したものが存在していないのが実状である。そのため、device としてのモグサや灸治療の際のテクニックなどの標準化を検討する際には、ヨモギの原料の採取場所及